

教育研究グループ 「若竹の会」 研究報告書

学校名	東京都立葛飾商業高等学校（全日制）	
研究期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日	
研究テーマ	若手による、職種を跨いだ円滑な校務の実践と ICTを活用した授業	
グループ構成員	統括・相談役	高石 公一（校長）
	代表・会計	中野 英樹（教諭）
	ICT教育推進担当	中村 修（教諭）
	メンバー	飯塚 智子（教諭）
	メンバー	北住 歩（教諭）
	メンバー	渡邊 詩織（教諭）
	メンバー	大高 吉央（経営企画室 主事）
	メンバー	鈴木 咲知（実習助手）

研究の概要と目的

近年、ICTを活用した授業展開が求められている。そこで、ICT機器を活用した効果的な授業を研究した。また、職種を跨いだ若手の職員で連携して、円滑に校務を遂行するための研究を行った。

I 職種を跨いだ円滑な校務の実践

- ・若手教員による授業研究
- ・キャリアプランに関する研究

II ICTの教育への活用

- ・携帯電話用の教育アプリケーションの開発
- ・ICTを活用した授業の実践（研究授業の実施）

目 次

1、はじめに（東京都立葛飾商業高等学校 校長 高石公一）

2、研究報告

3、学習指導案

1、はじめに

本校は、平成 23・24・25 年度に言語能力向上推進校として指定を受け、生徒のコミュニケーション能力の向上ために、すべての教科において言語能力向上のための取り組みや生徒の学力向上のために基礎学力の定着を図るための取り組みを実施してきた。学力を向上させるためには、教員一人一人の授業力を向上させ、わかる授業を展開する。従来の講義形式の教え込み型の授業ではなく、生徒とやりとりをしながら生徒の考えや意見を導き出しながら、生徒主体の授業を展開していく必要がある。そのための一つのツールとして ICT 機器を活用して、生徒の視聴覚に訴える教材を作成して、生徒にイメージさせることは、単に講義だけしているよりは、わかりやすく生徒も主体的に授業に参加できる。本校でも若手の教員が ICT 機器を活用した授業を展開していることから、教員になって 5 年目までの教員が、教科の枠を超えて授業を見学したり、指導法を協議したりする場を設定することで、教科の壁を超えた教員相互の授業研究ができる。さらに、若手教員同士が相互に直接的にアドバイスすることによって、今まで自分自身が気がつかなかった面に気づき、授業改善を積極的に行い、より生徒にわかりやすい授業を展開することができる。

今後も、若手教員同士が互いに継続的に授業研究することによって、教員一人一人の授業力が向上することを期待する。

東京都立葛飾商業高等学校
校長 高石 公一

2、研究報告

I 職種を跨いだ円滑な校務の実践

・若手教員による授業研究

教員には教育効果の高い授業の実践が求められている。そのためには、常に効果的な授業法を研究する必要がある。

そこで、若手教員による授業研究を計画し、実践した。まずは、経験年数の高い教員の授業を見学して、見学後に議論を実施した。なぜ、あの授業はわかりやすかったのか、なぜ、寝ている生徒がいなかったのか、どのような工夫のもと、生徒をひきつけていたのかなどについて、議論した。その際には、教員だけではなく、実習助手も参加することで、議論の幅を広げることができた。また、教師道場を卒業した教員にも参加していただき、授業手法と、それを実践するための技術を学ぶことができた。議論から得られたことを授業に活かし、その授業をメンバーが参観して改善点を指摘しあいながら進めることができた。

さらに、ある程度の改善点がわかったところで研究授業(指導案参照)を企画した。研究授業の開催により、管理職を含めた様々な教員からの意見を聞くことができ、さらに授業力の向上に役立てることができた。具体的には、板書の取り方、机間指導の手法、発問の工夫、話の仕方などである。

この研究によって学んだ事項を、今後の授業展開に活かして、教育効果の高い授業を展開できるよう、今後も継続して取り組んでいく。

・キャリアプランに関する研究

若手の教職員は、未来の自分がどうあるべきかのキャリアプランを、明確に持っている必要がある。今後、どのような方向に進むべきかを考え、それに向けて力をつけていかなければならない。そのためには、多くの職場を知ることが大切であると考えた。都立学校には、様々な種類がある。その多くの学校を知ることによって、今後のキャリアプランを考えるきっかけにしようと考えた。

①特別支援学校との連携

葛飾区内にある特別支援学校と連携して、部活動(ダンス部)の発表を行った。直接的に特別支援学校の教員と生徒と交流を持つことによって、相互理解を深めることができた。

平成26年11月19日(土)に、六郷工科高校にて開催された「広がれ絆(きずな)！オープンフェスタ ～共に生きる社会をめざして～」に、葛飾特別支援学校のダンスクラブと共演した。開催にあたり、葛飾特別支援学校にて合同練習や打ち合わせを開催し、互いのつながりを深めながら進めることができた。当研究会の教員には、特別支援学校での勤務経験が無いため、仕事内容等はほとんどわからない状態であった。この取り組みにより、特別支援学校の役割や仕事を知ることができた。教員のメリットだけでなく、生徒にとっても貴重な経験となった。障害の有無にかかわらず、お互いを大切にする気持ちを育むことができた。教員同士の交流、生徒同士の交流から得られたものを活かし、今後のキャリアプ

ランにつなげていきたい。この活動は、教育庁広報No. 607（平成26年1月10日発行）や、東京都教育委員会の「副籍制度の充実のために」（平成26年3月）に取り上げられた。

②島しょ学校の見学

普段なかなか交流を持つ機会がない、島しょ地域にある学校を見学に行った。島の学校は、イメージしていたものとは大きく異なっていた。島の人との交流を通じて、島の理解を深めることができた。

平成25年8月16日（金）～19日（月）に新島を訪れ、東京都立新島高等学校を訪問した。島の生徒が部活動をしている様子や、進路の状況などを見ることができた。進路については、島の高校は進学校ではないイメージをもっていたが、国立大学にも進学していることを知り、内地の学校と比べても、教育力に差がないことがわかった。新島高校の教職員とも交流を持ち、島の生活の話を知ることができた。また、島の人に新島を案内していただき、島の自然を知ることができた。

この取り組みにより、島しょにある学校について理解を深めることができた。研究によって得られたことを、今後のキャリアプランに活かしていきたい。

II ICTの教育への活用

・携帯電話用の教育アプリケーションの開発

ほとんどの生徒が利用している携帯電話。授業中の携帯電話の使用や、インターネットでのトラブルが増加しており、ネット依存に陥ったりする危険性も指摘され、問題となっている。携帯電話は、安全に正しく利用すれば便利な道具である。単に利用を禁止するのではなく、社会に出たら必須の携帯電話の利用法や安全性について教えながら、自宅での学習に役立てようと研究した。

理科の授業に連動した勉強アプリを開発し、生徒の自宅での学習に役立てようと考えた。試験前にはこの勉強アプリを活用し、勉強している生徒も多数いた。

肌身離さず持っている携帯電話であれば、いつでもどこでも学習をすることができる。携帯電話での学習を通じて、学習習慣を身に付けるきっかけとなることを期待している。

・ICTを活用した授業の実践（研究授業の実施）・・・指導案参照

携帯電話のほかに、ICT機器を活用した授業を研究した。これからの教員にはICTを活用した授業能力が求められる。まだまだ一般的になっていないICT機器を活用した授業にいち早く取り組み、活用能力を高めることができた。映像や音声を交えた授業では、生徒の関心や興味をひくことができた。今後もICT機器を用いた授業の実践に取り組んでいきたい。

3、学習指導案

指導案①

地理歴史科(日本史A)学習指導案

日時 平成25年6月17日(月)

第2校時 9:40~10:30

対象 第3学年2組 31名

授業者 中村 修 印

場所 2階3-2教室

1 単元名

歴史と生活—地域社会の変化—

2 単元の目標

身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し、地域社会がどのように変化してきたかを、政治的、経済的な条件や国際的な動きと関連付けて追究する学習を通して、歴史への関心を高めるとともに、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。

3 単元の評価規準

観点 評価	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 知識・理解
単元の 評価規準	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して、歴史への関心を高め、多様な学習方法により、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して、近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して、近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することや、博物館や文化遺産を活用することなどを通して、歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して、近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄と関連させて、歴史を考察する基本的な方法を理解している。

4 指導における自分の考え方

(1) この単元の扱いについて 「単元観」

身近な生活文化や地域社会の変化を追究する主題として、「江戸の政治・経済・文化と現代への影響」を設定する。江戸時代における江戸の町の発展は、政治・経済・文化的な面から現代の東京の町の基盤を形作っているといえる。この学習を通して、郷土を多角的な視点から考察させ、現在に連なる政治経済システムに気付かせるとともに、伝統文化を尊重させることを本単元の具体的な目標とする。

(2) 生徒の実態について 「生徒観」

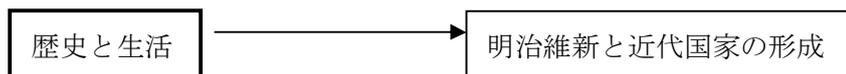
全体的に発言が多く、学習に前向きな生徒が多い。郷土史は小中学校で各区史について触れているが、定着度は低い。東京23区の地名と位置は覚えており、江戸と東京の結びつきに関する興味関心は高い。江戸

時代に関しては、政治史を中心に中学校までの学習が十分に身につけているとは言えないが、文化史についてはテレビで取り上げられることも多いため、断片的な知識があり、比較的興味関心も高い。

(3) 教材の活用について 「教材観」

副教材である『江戸から東京へ』を主に使用する。また、ICTを通し、当時の図や絵を提示し、歴史的な思考を促す。さらに、現代の地図を利用し、空間的視点から江戸と東京のつながりを理解する。そして、CDやDVDを使用し、視聴覚にもうたえていく。

5 年間指導計画における本単元との関係



6 単元の指導計画 (10 時間扱い)

時 (本時)	主な学習活動	
第1時	「東京」の地域概要と歴史(「都」と「特別区」の地域の視点から歴史を遡る)	
第2時	江戸の幕藩体制(幕府による江戸の町づくりから考える)	政治
第3時	江戸の「鎖国」体制(「鎖国」の目的と範囲を考える)	
第4時	江戸の陸海交通・流通システム(日本橋の発展から考える)	経済
第5時	江戸の貨幣制度と商売(銀座の役割と越後屋の商法、棒手振等から考える)	
第6時	江戸の食と農民(江戸野菜から農民の実態と商品作物栽培の隆盛を考える)	
第7時	江戸の住まいと娯楽(町人の娯楽を概観し、現代との連なりを考える)	文化
第8時 【本時】	江戸の浮世絵(文化としての価値を考える)	
第9時	江戸の歌舞伎(文化としての価値を考える)	
第10時	江戸の相撲(文化としての価値を考える)	

8 本時 (10時間扱いの第8時間目)

(1) ねらい

江戸町人文化の代表ともいえる浮世絵の「爆発的に人気があった理由」と「文化的価値」を発見させる。

具体的には、

- ①「画家と作風」の学習から、町人の生活に根差した娯楽的な側面があったこと
- ②「作成方法と広まる理由」の学習から、版画の手法で安価に入手できたこと
- ③「世界的評価」の学習から、芸術的価値を同時代の西洋の画家が認識していたこと

等を確実に理解させ、総合的に思考・判断させる。

(2) 展開

時間	具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入 5分	<p>○授業準備を行う。</p> <p>○本時の学習の目標は「浮世絵が人気があった理由と文化的価値」を考えることであることを意識する。</p>	<p>○机間指導を通し、授業が受けられる態勢を作らせる。</p> <p>○補助プリントの配布を通し、本時の目標を理解させる。</p>	<p>○浮世絵の人気理由について興味関心を持ち、理解しようとしている。【ア】</p>
展開 42分	<p>○スクリーンの画像とグループによる作業学習を通し、浮世絵が誰のために、また何のために描かれたものなのかを考える。(町人文化、娯楽的側面)</p> <p>○補助プリントの絵から、画家と作風の違いを理解し、町人の購買意欲を掻き立てる理由を考える。(美人画、役者絵、風景画)</p> <p>○スクリーンの画像を通し、裕福でない町人が浮世絵を楽しめた理由、また町人の購買意欲を掻き立てる理由を考える。(版画の手法、錦絵)</p> <p>○補助プリントの絵から、当時西洋の画家が浮世絵の芸術的価値を高く評価していた理由を考える。(ゴッホの模写、構図、色使い)</p>	<p>○グループで絵暦の読解を作業させ、またスクリーンの骸骨の絵や人体の組み合わせによる絵などの提示等を通し、<u>浮世絵が町人を中心とした娯楽である</u>ことを理解させる。</p> <p>○補助プリントから、美人画の喜多川歌麿、役者絵の東洲斎写楽、風景画の葛飾北斎・歌川広重の作風を理解し、<u>全て町人の生活に根差したものである</u>ことを理解させる。</p> <p>○スクリーンの版画の手法や多色刷りの錦絵の手法の提示から、江戸時代の印刷技術を理解させ、<u>安価で綺麗に大量に作成できることから町人に爆発的に広まっていった</u>ことを理解させる。</p> <p>○補助プリントから、ゴッホと歌川広重の浮世絵が酷似していることに気付かせ、<u>西洋の画家が浮世絵の芸術的価値を高く評価していた</u>ことを理解させる。</p>	<p>○江戸の浮世絵の人気理由について、多角的な視点から思考・判断している。【イ】</p>
まとめ 3分	<p>○浮世絵が爆発的に人気であった理由を再確認し、ノートにまとめる。</p> <p>○浮世絵に描かれた娯楽である歌舞伎に興味を持つ。</p>	<p>○浮世絵が爆発的に人気であった理由は、<u>身近で楽しめる内容で、版画のため入手しやすく、芸術的価値も高かったためである</u>ことをノートにまとめさせ、理解させる。また、次回の学習内容である歌舞伎についても興味を持たせる。</p>	<p>○浮世絵の人気理由と文化的価値を理解している。【イ】【ウ】【エ】</p>

(3) 授業観察の視点 *事後協議で特に意見やアドバイスをもらいたいこと

- 時間配分を考えてねらいが達成できる構成内容であったか。
- ICTや補助プリント等で提示する資料の見せ方や構成は、歴史的な思考を促すものであったか。
- グループ学習など、多くの生徒が思考判断できていたか。

指導案②

言語能力向上推進事業および3年次研修に伴う
地 理 歴 史 科 (日本史A) 学 習 指 導 案
ー博物館と連携したレポート調査学習およびICT発表学習ー

日 時 平成 25 年 11 月 19 日 (火)

第 2 校 時 9:40~10:30

対 象 第 3 学 年 2 組 31 名

授 業 者 中 村 修 印

場 所 2 階 3 - 2 教 室

1 単元名

歴史と生活ー地域社会の変化ー

2 単元の目標

身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し、地域社会がどのように変化してきたかを、政治的、経済的な条件や国際的な動きと関連付けて追究する学習を通して、歴史への関心を高めるとともに、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。

3 単元の評価規準

観点 評価	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 知識・理解
単元の 評価規準	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して、歴史への関心を高め、多様な学習方法により、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して、近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して、近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することや、博物館や文化遺産を活用することなどを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して、近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄と関連させて、歴史を考察する基本的な方法を理解している。

4 指導における自分の考え方

(1) この単元の扱いについて 「単元観」

身近な生活文化や地域社会の変化を追究する主題として、「江戸の政治・経済・文化と現代への影響」を設定する。江戸時代における江戸の町の発展は、政治・経済・文化的な面から現代の東京の町の基盤を形作っているといえる。江戸の政治は、身分制を基本とした武士が主体となり幕府という巨大な統治機構の下で展開したが、その結果日本全体を視野に入れた「公儀」として、また対外的にも「国益」を重視する視点を持ち進められていた。江戸の経済は、膨張する都市としての江戸を支えるインフラの整備が拡充され、街道や航路など日本全国につながる流通システムが構築されたことで大いに発展を極めた。江戸の文化は、貨幣経済が浸透し、農民の江戸流入が相次ぎ都市の人口が膨張したことと、戦乱がなくなり町人の生活が安定し、寺子屋などの教育機関により識字率が向上したこと等が理由で花開いた町人主体の文化である。この中から落語や歌舞伎などの伝統文化が誕生した。このように、江戸時代は現在とつながる多くのシステムの基盤が誕生した時代である。この学習を通して、郷土を多角的な視点から考察させ、現在に連なる政治経済システ

ムに気付かせるとともに、伝統文化を尊重させること、また江戸時代を総合的に考察することを本単元の具体的な目標とする。

(2) 生徒の実態について 「生徒観」

全体的に発言が多く、学習に前向きな生徒が多い。郷土史は小中学校で各区史について触れているが、定着度は低い。東京23区の地名と位置は覚えており、江戸と東京の結びつきに関する興味関心は高い。江戸時代に関しては、政治史を中心に中学校までの学習が十分に身につけているとは言えないが、文化史についてはテレビで取り上げられることも多いため、断片的な知識があり、比較的興味関心も高い。一学期の江戸時代の学習を通し、基礎的な知識は身につけている。

(3) 教材の活用について 「教材観」

副教材である『江戸から東京へ』を主に使用する。また、ICTを通し、当時の図や絵を提示し、歴史的な思考を促す。さらに、現代の地図を利用し、空間的視点から江戸と東京のつながりを理解する。そして、CDやDVDを使用し、視聴覚にもうたえていく。

また、本時の発表にあたり、江戸東京博物館の展示を利用した。以下のように、一学期の学習内容を定着させ、生徒の主体的な学習を引き出す手法として、博物館と連携したレポート学習および発表学習は非常に有効である。

博物館との連携学習の目的

- ① 実質的な事前学習となる、一学期に学習した江戸時代の政治・経済・文化の知識の定着が出来る。
- ② 実物資料を含む多様な史資料から歴史を考察出来る。
- ③ 教室では難しい、実物資料に触れることで興味を沸かせることが出来る。
- ④ 本時の言語能力向上推進事業発表会と三学期の校内学習成果発表会の内容として、生徒のプレゼンテーション能力向上の機会をつくる事が出来る。

江戸東京博物館を指定した理由

- ① 『江戸から東京へ』のテキストはこの博物館と連携して作られたため、テキストの掲載内容と博物館の展示内容とに関連性がとても深く、高校生対象のカラーのワークシートを発行している。
- ② 展示物が文献史料に偏らず、日本橋や中村座、神田祭の山車に両国橋の賑わいを再現した模型など、生徒が見て触って感じることが出来る実物資料が多数ある。
- ③ 両国に位置しているため、近隣の関連史跡（回向院、国技館、両国橋、旧吉良邸跡、東京都慰霊堂など）に足を運びやすい。

生徒のレポートから考察した博物館との連携学習の利点

- ① 日本史が苦手な生徒の興味を喚起しやすい。
- ② 博物館の雰囲気や実物資料から深く考察することが可能である。
- ③ 事前学習の知識の定着が深まる。
- ④ 事前学習の内容を越えた学習が可能である。
- ⑤ 伝統文化を尊重する姿勢や郷土を愛する心、外国人への自国文化発信の気持ちなどを育成できる。

5 年間指導計画における本単元との関係



※ただし、現時点では「国際関係の推移と近代産業の成立」を学習しており、本時は「歴史と生活」のまとめ発表のため、特別に順番を入れ替えて実施している。

6 単元の指導計画 (11 時間扱い)

時 (本時)	主な学習活動	
第1時	江戸の幕藩体制(幕府による江戸の町づくりから考える)	政治
第2時	江戸の「鎖国」体制(「鎖国」の目的と範囲を考える)	
※江戸の政治に関しては、次単元で幕末・維新を扱い、幕藩体制や「鎖国」体制の崩壊も一学期に既習		
第3時	江戸の陸海交通・流通システム(日本橋の発展から考える)	経済
第4時	江戸の貨幣制度と商売(銀座の役割と越後屋の商法、棒手振等から考える)	
第5時	江戸の食と農民(江戸野菜から農民の実態と商品作物栽培の隆盛を考える)	
第6時	江戸の住まいと娯楽(町人の娯楽を概観し、現代との連なりを考える)	文化
第7時	江戸の浮世絵(文化としての価値を考える)	
第8時	江戸の歌舞伎(文化としての価値を考える)	
第9時	江戸の相撲(文化としての価値を考える)	
第10時	江戸東京博物館における史資料調査の夏季レポート作成手順の説明	
夏季休業中	江戸東京博物館における史資料調査とレポート作成	
第11時 【本時】	江戸東京博物館における史資料調査のレポートに基づくICT発表	

8 本 時 (11 時間扱いの第 11 時間目)

(1) ねらい

江戸時代の総合的な考察とプレゼンテーション能力の向上

※一部、江戸時代から連なる明治期以降を扱い、産業革命の意義と現代とのつながりも考察する。

①レポート発表授業を通し、江戸時代の政治・経済・文化について知識を定着させるとともに、断片的な知識を総合化して江戸時代を歴史的に考察する。

※江戸時代が現在の生活や東京の基盤となっていることを実感させ、総合的に理解させる。

②レポート発表を通し、事前に準備を重ねた ICT を駆使し、プレゼンテーション能力を高める。

③レポート発表を聞いて、プレゼンテーションの手法を学ぶとともに、評価の方法を身に付ける。

※本校は地元に着した就職希望者が多い専門高校であることをふまえ、「郷土への愛着と理解」や「言語能力の向上」が最大のねらいである。

(2) 展開

時間	具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入 5分	○本時の学習の目標は「 江戸時代の総合的な考察とプレゼンテーション能力の向上 」であることを意識する。	○発表者のレポートおよび提示資料が掲載された冊子と評価用紙を配布し、本時の目標「 江戸時代の総合的な考察とプレゼンテーション能力の向上 」を理解させる。	○本時の目標について興味関心を持ち、理解しようとしている。【ア】
展開 35分 発表 6分 質問 2分	○配付された冊子と評価用紙をもとに、発表者がパワーポイント等の ICT 機器を使用し、自身のレポート内容を発表する。 ○発表していない生徒は評価用紙に項目ごとに評価を加え、適宜質問をする。 ※以上の活動を 4 人行う。	○司会をしながら、発表者がスムーズに説明できるよう、適宜発表の補助をする。 ○評価用紙の項目を正しく記入しているか机間指導を行い、発表後に複数質問をさせ、内容を深める。	○江戸の政治・経済・文化について、評価者は多角的な視点から思考・判断し、発表者は適切に表現している。【イ】【ウ】
まとめ 10分	○まとめた評価用紙の内容から、江戸時代の政治・経済・文化の内容を理解し、「 現在の生活や東京は江戸時代が基盤となっている 」ことを、総合的に考察する中で理解する。 ○まとめた評価用紙の内容から、プレゼンテーションのポイントを理解する。	○発表内容から江戸時代の政治・経済・文化に関することを板書し、最後に江戸時代の総合的な考察である「 現在の生活や東京は江戸時代が基盤となっている 」ことを板書して理解させる。 ○プレゼンテーションを行う上で注意すべきポイントを解説し、理解させる。	○江戸の政治・経済・文化について振り返り、総合的に江戸時代を理解し、現在とのつながりも考察している。 【イ】【ウ】【エ】

(3) 授業観察の視点 *事後協議で特に意見やアドバイスをもらいたいこと

- 時間配分を考えてねらいが達成できる構成内容であったか。
 - 生徒の発表におけるプレゼンテーションの手法は適切であったか。
- ※関連して、ICT 提示内容や構成、資料提示の順番などの指導は適切であったか。

指導案③

地理歴史科(日本史A)学習指導案

日時 平成26年1月30日(木)

第4校時 11:40~12:30

対象 第3学年2組 31名

授業者 中村 修 印

場所 2階3-2教室

1 単元名

近代日本の歩みと国際関係ー両大戦をめぐる国際情勢と日本ー

2 単元の目標

諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。

3 単元の評価規準

観点 評価	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 知識・理解
単元の 評価規準	二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化から課題を見だし、諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化に関する文献、新聞、絵画、地図、写真、映像、統計・グラフなどの諸資料や聞き取りなどによる様々な情報を収集し、有用な情報を選択して活用することなどを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	二つの世界大戦との間の内外情勢の変化についての基本的な事柄を諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、アジア近隣諸国との関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

4 指導における自分の考え方

(1) この単元の扱いについて 「単元観」

第一次世界大戦前後には世界的に「一等国」として認められていた日本は、欧米との植民地争いやそれに伴う協調関係、中国の北伐の対応など国際的な問題に直面することになる。また、国内では関東大震災や金融恐慌、金解禁政策、世界恐慌を遠因とする昭和恐慌が起きており、満州事変から始まる足掛け15年に及ぶ戦争に突入していくことになる。この十五年戦争は総力戦体制の下に行われ、前線の兵士だけでなく銃後の国民も巻き込んだものだったが、日本国民はもちろん、東アジアや東南アジアの人々にも惨禍を及ぼし、戦後69年経つ現在でもその影響は完全に消えてはおらず、様々な課題となって表出している。

本単元では、満州事変が起きた原因と日中戦争およびアジア・太平洋戦争へ拡大・長期化した経緯、前線の兵士の実態と銃後の国民生活を考察することで、十五年戦争を概観し、戦後にも多大な影響を与えた総力戦体制の実態を理解することを目標とする。

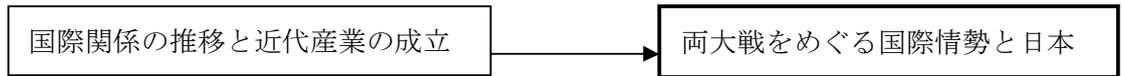
(2) 生徒の実態について 「生徒観」

全体的に発言が多く、学習に前向きな生徒が多い。十五年戦争に関する具体的な情報は、二年次の修学旅行の指導による沖縄戦の知識や小中学校の学習により、断片的な知識はあるが、総合的な知識がある生徒は皆無である。また、祖父母が戦争体験を持つ生徒も多少いる。

(3) 教材の活用について 「教材観」

副教材である『江戸から東京へ』を主に使用する。また、ICTを通し、当時の図や絵、写真を提示し、歴史的な思考を促す。さらに、現代の地図を利用し、空間的視点からアジア・太平洋地域を理解する。そして、CDやDVDを使用し、視聴覚にもうたえていく。

5 年間指導計画における本単元との関係



6 単元の指導計画 (4 時間扱い)

時 (本時)	主な学習活動	評価
第1時	15年戦争が起きた原因を考察する。	イ
第2時	15年戦争が拡大・長期化した経緯を考察する。	イ
第3時	15年戦争における前線の兵士の実態を考察する。	ウ
第4時 【本時】	15年戦争における銃後の国民の役割を考察する。	ウ

8 本 時 (4時間扱いの第4時間目)

(1) ねらい

総力戦体制に関して、「法律および組織」・「国民の役割と実践」の2側面から考察する。
具体的には以下の項目を理解する。

- ①戦争の拡大・長期化によって総力戦体制が構築されたこと。
- ②国家総動員法や大政翼賛会などの指導により展開されたこと。
- ③女性が家事・育児・生産の役割を担ったことで戦争を支えたこと。

(2) 展開

時間	具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入 5分	○本時の学習は「 <u>国民はどのように15年の戦争を支えたのか</u> 」を考察することが目標であることを意識する。	○ICTの提示資料(上野大仏や戦闘機)から本時の学習目標を意識させる。	○プリントやICT提示による様々な史料から総力戦体制のあり方を多角的に考察し、要約している。
展開 35分	○戦争の拡大・長期化の原因を振り返りつつ、なぜ総力戦体制が必要とされたのかを考える。 ○板書と発問から、法と組織が総力戦体制に必要とされたことを理解し、ICT提示資料から、どのように国民を戦争に参加させたのかを考える。 ○雑誌『日本婦人』とプリント、ICT提示資料から、女性が総力戦体制をどのような役割で支えていたのかを考える。	○板書と発問から、 <u>戦争が拡大・長期化したことで総力戦体制が必要とされた</u> ことを考察させる。 ○板書と発問および教科書資料やICT提示資料(隣組常会、防空訓練、配給)から、 <u>国家総動員法と大政翼賛会の指導によって国民が戦争に参加させられた</u> ことを考察させる。 ○雑誌『日本婦人』の回覧とプリント(女性の役割の絵、貯金の漫画、国民学校・疎開の漫画)、ICT提示資料(戦時食、衣料切符、勤労奉仕)から、 <u>女性は家事・育児・生産の役割が求められた</u> ことを考察させる。	【ウ】
まとめ 10分	○ICT提示資料から、「なぜ国民が戦争を支える必要があるのか?」「どんな法律や組織の指導で戦争が進められたのか?」「どんな人たちがどんな役割で戦争を支えたのか?」という問いに自ら答えることで総力戦体制のあり方を考察する。	○「国民がどのように15年の戦争を支えたのか」という冒頭の問いに対し、 <u>戦争が拡大・長期化したことによって総力戦体制がつけられ、国家総動員法や大政翼賛会の指導により女性は家事・育児・生産の役割を徹底することで戦争を支えた</u> ことをまとめさせる。	

(3) 授業観察の視点 *事後協議で特に意見やアドバイスをもらいたいこと

- 時間配分を考えてねらいが達成できる構成内容であったか。
- 生徒がある程度主体的に授業に参加できる構成になっていたか。

指導案④

学習指導案

教科	理科	科目	生物基礎	授業担当者	東京都立葛飾商業高等学校 中野 英樹
日時	平成25年11月26日(火) 3時限			対象クラス	2年4組31名
単元	第3章 体内環境と恒常性 第2節 体内環境を維持するしくみ				
単元の 設定 理由	<p>【生徒観】 本校では、1年次に化学基礎で化学について学習しているが、生物の分野については、中学校以来の学習となる。そのため、中学校までの内容を復習しながら、授業を進めている。</p> <p>基本的な学習態度を身につけさせるために、板書や重要な説明をノートやプリントに書かせることで、授業に取り組みせ、発問などを行うことで授業に参加させている。</p> <p>理数系科目に対して苦手意識を持っている生徒が多い。そのため、身近な話題を取り上げながら進めることで、理科について興味・関心をもてるようにしている。</p> <p>【教材観】 自作プリントを利用して重要事項を書かせるとともに、練習問題を解かせることにより理解を深められるようにしている。</p> <p>生徒の体を実験することは難しいが、教員自身が実験台となって、身近に感じられるようにしている。</p> <p>I C T機材を活用して、視覚的に学習できるようにしている。</p> <p>【指導観】 ホルモンや神経を通じて、からだが動いていることについて理解する。</p> <p>自律神経にはたらきについて理解する。</p> <p>ホルモンの調節にはフィードバックという機構が関与していることを理解する。</p>				
指導 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物はホルモンという物質で活動していることを知る。 2. 様々なホルモンの種類について知る。 3. 血糖値の調節や体温の維持などには、ホルモンがはたらいていることを知る。 				
本単 時元 の指 導計 画と	<p>第3章 体内環境と恒常性</p> <p>第2節 体内環境を維持するしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体内環境調節のしくみ ・自律神経の働き ・ホルモンによる体内環境の維持 ・血糖量の調節 ← 本時 				

教材	教科書 / 高等学校 新生物基礎 (第一学習社)
単元の観点別評価	<p>【関心・意欲・態度】 授業に必要なものを用意し、また不要なものを机の上に置かず、意欲的に授業に取り組もうとしている。板書をノートやプリントへ書いている。</p> <p>【思考・判断】 ホルモンのはたらく仕組みに気づくことができる。 どのように実験したらよいかを考えることができる。</p> <p>【技能・表現】 血糖値や体温の調節について説明することができる。 実験方法について説明することができる。</p> <p>【知識・理解】 ホルモンの種類とはたらきを理解している。 自律神経の種類とはたらきを理解している。</p>

(本 時 の 指 導)

目標	○ 食事後に血糖値が上昇することを実感する。 ○ ホルモンの放出を実感する。			
導入	指導内容	学習活動 (生徒の活動)	時間 (分)	指導上の留意点 (板書・重要用語・発問・他) ※評価の観点 (関・思・技・知により省略記載)
展開	血糖値の測定① (カメラで中継し 投影する)	○本日の学習テーマを確認する。 ○実験方法を知る。 ○空腹時の測定を見る。	40	○これから学習する内容について、概略を述べる。 今まで学習した血糖値の調節など、人間はホルモンによって活動しているといっても過言ではないことを述べ、本時は具体的に実験で確かめることを説明する。【説明】 ※授業に必要なものを用意し、準備が整っている。 授業に必要なものが机の上置いていない。(関)
				○血糖値とは何かを復習する。 【説明】【板書】【発問】 ○血糖値の上昇を確かめる実験の方法を説明する。 【説明】【発問】 ○教員自身の採血を行い、実験前 (空腹時) の血糖値を測定する。

	<p>唾液アミラーゼの測定（カメラで中継し投影する）</p> <p>血圧の測定（カメラで中継し投影する）</p> <p>血液循環時間の測定（カメラで中継し投影する）</p> <p>血糖値の測定②（カメラで中継し投影する）</p>	<p>○板書の内容をプリントに書く。</p> <p>○ストレスによりホルモンが放出することを知らる。</p> <p>○実験の方法を知る。</p> <p>○前に出てきて、実験する。</p> <p>○実験の方法を知る。</p> <p>○前に出てきて、実験する。</p> <p>○実験の方法を知る。</p> <p>○前に出てきて、実験する。</p> <p>○食後の測定を見る。</p>	<p>○甘い食物を食し、血糖値を上昇させる。</p> <p>○授業への取り組み状態を確認する。【机間指導】</p> <p>※プリントに板書の内容を記入している。（関）</p> <p>○ストレスとホルモンの関係を説明する。【説明】</p> <p>○実験方法を説明する。【説明】</p> <p>○実際に生徒を教室の前に出てこさせて、実験する。【説明】【発問】</p> <p>○血圧について説明し、血圧計を用いて、緊張による血圧の上昇について説明する。【説明】【発問】</p> <p>○実際に生徒を教室の前に出てこさせて、実験する。【説明】【発問】</p> <p>○パルスオキシメーターについて説明し、この器具を用いて、血液がからだを1周するのにかかる時間を測定するには、どのようにしたらよいかを考えさせる。【説明】【発問】</p> <p>○実際に生徒を教室の前に出てこさせて、実験する。【説明】【発問】</p> <p>○教員自身の採血を行い、実験後（食事後）の血糖値を測定する。</p>
まとめ	実験のまとめ	○実験の感想を書く。	<p>5 ○実験のまとめを述べ、感想を書かせる。【説明】【机間指導】</p> <p>プリントは回収して、次の時間に返却する。</p> <p>※ノートに板書の内容を記入している。（関）</p> <p>○机間指導しながら、生徒の質問に答える。【机間指導】</p>

指導案⑤

国語科学習指導案

日時 平成25年11月13日(金) 第2校時

対象 1年6組 36名

授業者 都立葛飾商業高等学校 教諭 飯塚 智子

場所 1年6組教室

1、単元名 『羅生門』(使用教科書「新編国語総合」第一学習社)、
言語技術実践「問答ゲーム」

2、単元の指導目標

- ・ 作品を理解する上で必要な時代背景、物語の世界観を理解する。
- ・ 登場人物の行動や心理、場面の情景を思い描くことができる。
- ・ 他者と会話する大切さ、人に伝える話し方について学ぶ。

3、単元の評価規準

	ア、関心・意欲・態度	イ、話す・聞く能力	ウ、書く能力	エ、読む能力	オ、知識・理解
単元の評価規準	進んで授業に参加し、内容の理解に努めている。	作品の音読や解説を聞き、自分の意見を話すことができる。	自分の意見を皆に分かりやすく書くことができる。	物語の世界観と登場人物の心情を表現に即して読み取ることができる。	作品を読み取る上で必要な時代背景、語句の意味などを理解している。
具体的な評価規準	積極的に設問に取り組み、参加している。	発問に対して自分の考えを伝えることができる。聞き取りやすい声で音読することができる。	皆に分かるように自分の考えを書き、板書することができる。	本文より、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	語句の意味を理解し、本文を読み進めることができる。

4、指導観

(1) 単元観

『羅生門』は、人間の宿命的なエゴイズムを主題とした小説として、研究の世界でも、国語教育の世界でも、長い間親しまれてきた小説である。表現においても、テーマにおいても多様な解釈ができ、言葉にこだわりながら読み、奥行きのある。不気味な老婆の存在、「飢え死にをするか、盗人になるか」という問い、羅生門という舞台設定など、下人の体験を迫体験しつつ、その現場に近づくこともでき、語句の意味などについても理解を深めることができる単元である。

(2) 生徒観

指導対象である1年6組では、これまでに『散髪』、『よだかの星』、『島の少年』とそれぞれの小説を読み、味わってきた。さらに、2学期からは、今後の進路活動のためにも授業の中で「問答ゲーム」を取り入れ、話す練習をしている。1年6組は授業に意欲的に参加している生徒が多い。しかし、国語に苦手意識を持つ生徒は少なからずいる。そこで、授業ではICT機器を毎回使用し、生徒の興味・関心をひく授業を心がけるとともに、小テストを毎週行い、各自の理解と家庭学習が確実に定着するようにした。

(3) 教材観

『羅生門』では、作品のテーマは何なのか、下人の行動は肯定的に解釈できるのか、ということについて、各自が考えることができる。登場人物の心情や物語の世界観について理解することができるだけでなく、芥川龍之介の作品に興味・関心を持ち、語句の意味の理解も深めることができるので、教材として選定した。

5、年間指導計画における位置づけ

本単元では、語句の意味について理解を深め、物語の世界観を味わう。また、芥川龍之介に対する興味・関心を養い、作品のテーマについて考えさせる。

6、単元の指導計画と評価計画（11時間扱い）

	○学習活動・学習内容	○評価規準
第1時	「羅生門」① 音読する。作者の生い立ち、主な作品を理解する。漢字、語句を理解する。	ア・イ・ウ・エ・オ
第2時	「羅生門」② 第一段落 音読する。語句の意味に注意し、主人公の置かれている状況、物語の設定を読み取る。	ア・イ・ウ・エ・オ
第3時	「羅生門」③ 第一段落 音読する。逃げ場をなくし、追い込まれた状況の、下人の心理状態を読み取る。	ア・イ・ウ・エ・オ
第4時	「羅生門」④ 第二段落 音読する。不気味な老婆と出会った、下人の体験を読み取る。	ア・イ・ウ・エ・オ
第5時	「羅生門」⑤ 第二段落 音読する。下人が老婆を目撃して、何を感じたのか、その心理の変化を読み取る。	ア・イ・ウ・エ・オ
第6時 (本時)	「羅生門」⑥ 第三段落 音読する。老婆の動作、身体的特徴と下人の行動を読み取る。	ア・イ・ウ・エ・オ
第7時	「羅生門」⑦ 第三段落 音読する。老婆が死人の髪を抜く目的を知った、下人の心理の変化を読み取る。	ア・イ・ウ・エ・オ
第8時	「羅生門」⑧ 第三段落 音読する。老婆の論理（「悪いことをした人間には悪いことをしてもよい」「生きるために仕方がなくする悪は許される」）を読み取る。	ア・イ・ウ・エ・オ
第9時	「羅生門」⑨ 第三段落 音読する。老婆の論理を聞いた、下人の行動と心理を読み取る。	ア・イ・ウ・エ・オ
第10時	「羅生門」⑩ 第四段落 音読する。下人の未来について、話し、書く。	ア・イ・ウ・エ・オ
第11時	「羅生門」⑪ 物語のテーマを捉え、自分の意見を書き、話す。	ア・イ・ウ・エ・オ

7、指導にあたって

- ・視覚からも興味・関心を持てるよう、ICT機器を使用する。
- ・教員からの一方通行の授業とならないよう、読解を行う際は、発問を多く取り入れる。

8、本時（全11時間中の6時間目）

(1) 本時のねらい

- 老婆の様子と下人の心理を理解し、自分の言葉で話す。
- 人に伝える話し方について学ぶ。

(2) 本時の展開

時間	学習活動と学習内容	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 10分	○挨拶をする。 ○問答ゲームをする。 ・隣同士で質問し合う。 ・指名された生徒は前に出て、発表する。	・ルール、ペアになっているか、など生徒の反応、様子に注意する。	ア、イ（発言）
展開 43分	○前時までの復習と目標の確認（5分） ○本文の内容を理解する。（28分） ・音読する。 ・本文に沿い、老婆の姿（動作、身体）をつかみ、そこから、老婆についてどのような印象を持つか、書き、話す。 ・本文に沿い、老婆に対して、下人がどのように行動し、どのような心理状態であったかを読み取る。	・指名にて確認する。 ・ICT機器を使用し、視覚からも復習する。 （画像…羅生門の復元図） ・生徒の反応に注意する。 ・ICT機器を使用し、視覚、聴覚からも興味を持たせる。 （画像…①弩、②鶏の脚、音…カエルの鳴き声） ・机間指導を行う。 ・指名にて確認する。 ・根拠を持って話すよう指導する。 ・指名にて確認する。 ・なぜ下人は自分を「旅の者だ」と言ったのか、下人のプライドについて特に着目させる。 ・老婆の答えがどのような答えであったら、下	ア（発言） ア、ウ、エ、オ（観察、発言、ノート） ア、イ、ウ、エ、オ（観察、発言、ノート） ア、イ、ウ、エ、オ（観察、発言、ノート）

		人は納得したのか、具体的に考えさせる。	
まとめ 3分	○本日の場面について映像（NHK/10min）を鑑賞することで、理解を深める。	物語の設定が今の自分と大きく異なっただとしても、今の私たちの感覚と変わらない部分があることを理解させる。	・イ、オ (発言)

(3) 授業観察の観点（事後協議で特に意見やアドバイスをいただきたいこと）

- 本時のねらいが達成できたか。
- 学習活動が本時のねらいを達成するための学習活動であったか。
- 生徒の主体的な活動を取り入れていたか。

(参考)

・問答ゲーム（「問答ゲーム用例集」つくば言語技術教育研究所より抜粋）

- ①私は〇〇が好き・嫌いです。
- ②理由は～だからです。
- ③以上の理由で私は〇〇が好き・嫌いです。

本日のお題

- ①あなたは猫が好きですか。
- ②あなたはディズニーランドが好きですか。
- ③あなたは後片付けが好きですか。
- ④あなたはお風呂に入ることが好きですか。